https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.01.23 第６１号

1月月例会の報告

1月20日(土)9:00～12:00　白梅いずみ保育園にて　　参加者数　22名

＜運営会議＞

・森本先生から「夢みる小学校」の紹介
・山口先生から「ゆずりんコンサート」の紹介
・今後の月例会と「わくわく研修会」について

２月月例会　２月１７日(土)　９：００～　ゆめの樹保育園
研修会：１０：００～　「文字から楽しい絵が生まれるよ！？」

３月月例会　３月９日(土)　９：００～　鎌倉女子大学幼稚部
研修会：１０：００～　「糸引き絵から生まれる表現の広がりを探ろう！」

＜わくわく研修会＞

「クレヨンの表現あれこれ」　～～クレヨンでのびのび！たのしく！～～

小学校の低学年図画工作科で行う造形活動「クレヨンロケットのうちゅうたんけん」と「○△□で花をかこう」を参加者みんなで体験しながら、小学校の造形活動と幼稚園保育園の造形活動の違いや共通点、そのつながりなどを感じたり考えたりしてみました。

画用紙の宇宙に星をいっぱい描き、その間をクレヨンのロケットで飛び回る。それだけのテーマで、その後の表現は自由に。約束は、ロケット発射の時に「３・２・１○○ロケット発射！」と大きな声で言うだけ。

やってみると、何とも楽しく活動を進めていくことができます。「発射！」の声があちこちから聞こえてきて、楽しくにぎやかに、いつの間にかみんな夢中になって手を動かしていました。

○△□の花では、同じテーマで描いてもみんなそれぞれ違う表現が生まれてきます。大人はとかく「うまい、へた」ということにこだわって表現しがちですが、この活動では、大人でも自然と自分の思うままに楽しく表現していくことができました。

幼児でも簡単にできそうな活動ですが、実はこの活動の中にもたくさんの学びが含まれているのです。

この活動を通して、どんなことを学び感じ取れるのかを紹介するのは難しいので、参加したみなさんの感想から感じ取ってください。

参加者の感想

○私自身、絵を描くことが苦手で、「上手」に描きたいという思いが強かったことを思い出しました。今回も大きな白画用紙を目の前にして、どんなことをするのか、上手に描けるかなど“楽しむ”気持ちが足りていなかったと思います。ですが、みなさんが思うままに楽しんで描いている様子を見て、私もとりあえず描いてみようと描き始めると、気づいたら夢中になって楽しんで描いていました。子どもたちには「上手に描かなくていいんだよ」ということを伝えていましたが、今回“上手ってなんだ？”と思い、「上手に描くこと」に一番捉われていたのは自分だったと感じました。今回学ばせていただいたことをこれからの保育に活かしていきます。ありがとうございました。

○初めて参加して、緊張していたのですが、楽しい時間を過ごさせていただきました。やはり、自分自身が楽しまないと子どもにも伝わらないなと改めて思いました。今回はクレヨンを使いましたが、同じテーマでもいろいろな捉え方があり表現方法があります、それを見せ合うこともとても大事だと思いました。そして、子どもによっては、取り掛かるのに時間がかかったりすぐに描き出せなかったりする子もいます。その時の先生の言葉かけによって自由に表現できるのだと思い、言葉かけの難しさを改めて感じました。でも、まず私自身が楽しく表現することで楽しい時間を過ごせるのだと思い、初心に戻ったような気がします。今日はありがとうございました。

○久しぶりにクレヨンを使って自由に描いたりすることで絵を描くことが楽しいなと感じました。テーマがあっても描く形がきまっていないと、いろんな絵ができて面白いなと思いました。子どもたちが絵を描くときも、紙にたっぷりと描く子やいろんな絵を描く子がいたりして、自由でいいんだなと感じました。

○今日も楽しい時間をありがとうございました。クレヨンの面白さ、改めて体感した気がしました。描いていて、もっとおもしろいものを！と考えが出てくると急に手が止まってしまうこともありました。おもしろいものをもっと上手に描こう！という思いが表現の妨げになっていることも感じることができました。子どもたちにクレヨンのいろいろな感覚を感じてもらえるような機会をつくっていきたいと思います。そして、改めてクレヨンの色あざやかさが、心を動かすことも感じました。

○今回、この研修会に参加させていただき、自由に楽しくのびのびと描く面白さを新たな気持ちかつ懐かしい気持ちで感じることができました。真っ白な大きな画用紙にクレヨン･･･。「そういえば大人になってから画用紙に真正面から向き合っていただろうかと」と考えていた時に「小学校１年生の気持ちで~･･･」との声かけがあり、幼いころ描くことが好きだった自分を思い出しながら楽しんで描くことができました。色とりどりのクレヨンから使いたいものを選んで描く、思うように描く、子どもたちにもぜひその楽しさを実感してもらえたら。ワクワクする気持ちを感じてもらえたら嬉しいと思いました。私自身は乳幼児クラスの担任ですが、年齢に合わせた楽しい造形活動をしていきたいです。

○クレヨンを使った活動の幅が広がりました。テーマとやり方が全て決まっていると不自由さを感じますが、テーマとやり方を自分のオリジナルに変えて、クレヨンの活動ができることの大切さを改めて感じました。

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.02.01 第６２号

1月の「わくわく研修会」参加者の感想（Part2）

○クレヨンを使って絵を描くと考えたときに、どのように描いたらよいか悩むことが多かったので、今回の研修で楽しく描けることが経験できて本当にいい学びとなりました。あまりクレヨンの色を重ねていくということがなかったのですが、夢中になって描いていくうちに自然と色が重なっていて、思いがけない発見もあり楽しかったです。小学校の取り組みも、もっと年齢の低い子たちにもできる部分が多くあると感じたので、現場でも取り入れていきたいと思います。

○初めて研修会に参加させていただきました。研修会というと堅いイメージをもっていましたが、先生の話を聞きながら実際にクレヨンで楽しく描いて過ごせました。何かを描かなくてはいけないというものではなく、正解にとらわれない活動が子どもたちに与えてあげられるといいなと思いました。

○今回は参加させていただきありがとうございました。造形に興味があり、学ぶ機会がなかなかなかったので、楽しく参加できました。クレヨンは身近なものなので、保育の中でも、すぐに声掛けできるなと思いました。上手い下手ではなく、心から楽しく感じて描くことの大切さを改めて感じました。自分の息子も成長するにあたり、上手に描こうとしたり、人の意見を気にしたりすることも出てきたので、家庭でも伝えていきたいと思いました。

○今回、初めて研修に参加させていたできました。自分自身がとても楽しくクレヨンに触れることができたので、この経験を保育にも生かしていきたいなと思いました。小学校４年の娘と年長の息子もいるので、小学校の図工にも興味があったのですが、どの小学校でも、今回のような楽しい活動ができるといいのになと思いました。改めて“楽しく”造形をすることが大切なのだということも、自分が楽しむことで気づくことができました。ありがとうございました。

○“描く”ことに少し抵抗のある私でも楽しく参加することができ、貴重な時間を過ごさせていただきました。造形活動を行う中で、どうしてもテーマを投げかけることが多くなりがちですが、初めに行った“ロケット発射！”の方は、テーマはありながらも“何かを表現する”ことよりもクレヨンに触れて描くことを楽しむことや線遊びを重視し、だれでも“わくわくドキドキやってみたい！”という導入が子どもたちの心をほぐしていくんだなと感じました。幼稚園でも実践できそうだな思ったので、ぜひやってみたいと思います。本日はありがとうございました。

○絵を描くことがすごく恥ずかしくて苦手でしたが、この研修で楽しく描くこと、どんな絵でもいいんだということで、少し苦手意識が薄れ、こうやって描くのは楽しいと感じました。みなさんの描いた絵を見て、同じ約束事なのに、人それぞれ個性的で面白いなと思いました。子どもたちにものびのびと描く楽しみが味わえるような活動を保育に取り入れていきたいなと思いました。ありがとうございました。

○子どもたちがクレヨンを楽しんでいる姿はよく見ていたのですが、自分が楽しんで描くことは少なかったです。また、私自身も絵が苦手で描くことが少なかったので楽しむこともほとんどなかったのですが、今回の研修で久しぶりに描くことが楽しいと思えました。２歳児クラスでもテーマをもとに絵を描くことが少ないので、今度はテーマをつけて、子どもたちの力を引き出せるようにしたいです。

○とても good な研修会でした。それぞれが自分らしさをのびのびと発揮できるとっても楽しい活動です。こんな活動が造形活動の基本なんですよね。改めて感じさせられました。

○私はお絵描きが得意ではなかったので・・・。今日童心に帰ってクレヨン画を体験したことで、自由に描くことの楽しさが分かりました。子どもたちにたくさん経験させてあげられたら得意不得意に関わらず、“表現することが好き！”と自信をもてる子になれると思いました。ぜひ、小さな頃から造形に触れさせてあげたいです。楽しいご指導をありがとうございました。

○今回もとても面白い活動に参加させていただきありがとうございました。上手い下手ではなく、楽しんで取り組むことの大切さを身をもって感じられました。絵画では、子どもたちの個性を出させてあげたいと感じ、悩むこともありますが、今回のように楽しんだ結果の先に個性が生まれてくるのかとも思いました。また、安心して取り組めるということも本当に大切だと感じたので、子どもたちが安心して思いきり楽しめるような活動を提供できるよう、これからも学びを深めていきたいです。

○無心になって楽しめた研修でした。だれでも、クレヨンが持てれば楽しく活動ができるということを実感しました。このワクワク感が造形・表現に繋がっていくのだと思います。形になることが目的ではなく、表現することが楽しいというところに結び付いて、きっと、うれしい気持ち、楽しい気持ち(悲しいときは悲しいと）を表現できる子どもたちになってくれると思いました。

「ゆめの樹保育園フィロスアート(作品展)」の紹介

１月２７日(土)に「ゆめの樹保育園ほどがや」の作品展(フィロスアート)を見せてもらいました。

作品展なので、もちろん子どもたちの作品もたくさん展示されていましたが、ここの園の作品展の特徴は、子どもたちの造形活動の過程、子どもたちがものと関わる中でどんな行為をしたのかをとても大切にしているところでした。

０歳児から年長児までが、同じ素材と関わって造形活動を行った様子が、子どもたちの姿を写した写真とその過程でどんな活動(行為)をして、どんなことに気づき、感じたのかをていねいに見取って紹介されているコーナーがありました。

造形活動は、結果としての作品だけではなく、その表現が材料との関わりからどんな行為を通して生まれたのか、その過程が大切で、そこに子どもの思いや気づきが表れ、成長の様子が見て取れるものです。園の先生方が、そのことをとても大事にして日々子どもたちと接している様子が、展示からよく伝わってきました。話を聞いてみると、１対１で子どもの様子を見ている場面も多いとのことで、一人一人の子どもの思いをしっかりつかんでいる姿がとても素晴らしいことだと感じました。

別の部屋で行われていたワークショップも米粉を使って粘土を自分でこねてつくってみたり、ビニール袋にお湯を入れてそこに寝転んで身体全体でその感触を楽しんだりと、手作り感満載の楽しい活動の場が提供されていました。

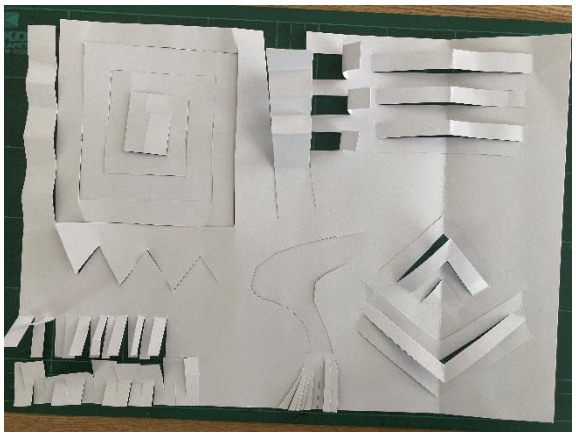
https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.02.12 第６３号

教材研究は楽しい！

急遽、小学校５年生の図工を数回教えることになりました。とにかく楽しく造形活動ができる授業を考えようと思い、まずは、１２月のもりあげる会の「わくわく研修会」で行った１枚の紙をハサミで切って折ったり曲げたり、ひねったりしながら立体に表す活動をやってみようと思いました。

研修で取り上げた活動は、幼稚園で取り組んだ活動でしたので、小学校５年生向けに活動を構成してみようと、まずは教材研究に取り組んでみました。



１枚の紙を自由にハサミで切っていくことから始めるのですが、幼児は本当に思いのままに切り始めるでしょうが、小学生は、まずどうやって切ろうかと悩むことから始まる子が多いのではないかと思います。そこで、いくつか切り方の例を示して、「こんな切り方もあるよ」「こうやって切るとこんな感じになるよ」と切り始めのハードルを少し下げて、まずは自分でいろいろ考えながら切り始められるよう、少し後押しが必要かなと感じました。

いろいろな切り方を試しながら紙を切っていくと、結構いろいろな切り方ができたので、まずは、これが使えそうです。次に、これを何とか立体にしてみようと、切った紙を曲げたり、捻ったり、いろいろな方向に折ったり、丸めたりと試みていくと・・・。なかなか面白い形が生まれてくるので、どんどん楽しくなってきます。ある程度形が見えてきたら、自分で決めた形にホッチキスで止めていきたくなります。やはりここは、簡単ですぐに止まるホッチキスが最適のようでした。

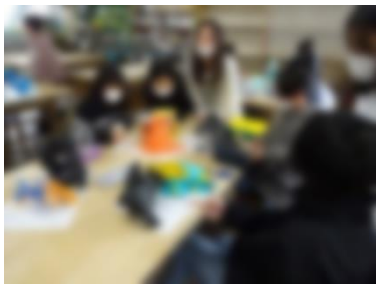
ここでふと思ったのが、小学校高学年の子どもたちだと、切って折った形や切り方による構成に目が行き、切った形からのデザイン的な表現に移行してしまうかもしれないと感じました。この活動の面白さは、平面の紙を切って折り曲げたりすることにより立体を作り出すところにあるので、できれば自然とその方向に子どもたちの表現を向けさせたいところです。

自分でやってみると、それに関して、いくつか気がつくことがありました。まず、紙を切るときに切り離さないで、たくさん切り込みを入れても、あくまでも１枚の紙として表現すること。そして、切った部分で立体を考えるのではなく、１枚の紙全体で一つの立体を表現していくようにすること。この２点だけは、条件としました。

教材研究ということで、自分でつくったり表現してみたりすると、自然と授業をどう工夫していこうか、どのように構成したらよいだろうかと、教材研究が授業研究になっていきます。これがまた楽しい。

・「子どもたちはどんな表現をするだろう」「どんなことを考えながら表現していくだろう」「やってみてどんなことに気がつくだろう」と、子どもたちの気持ちや活動の様子を思い浮かべながら自分でやってみる。とにかく子どもたちに楽しく活動させたい。
・つくること・表現すること、学ぶことの楽しさを味わわせたい。
・そうすれば、自ら活動を進め、自分で考え、自分で気づき、自分で決めて表現し、楽しんで自分なりの学びを獲得できるはず・・・。

などなど考えていくと、早く子どもたちと一緒に活動したいとなんかワクワクしてきますね。



授業をしてみると、予想以上に子どもたちから面白い表現が生まれてきました。初めて顔を合わせた子どもたちなのに、一緒に活動しているだけで、こんなにもコミュニケーションが取れるものなのかと、改めて造形活動の凄さや楽しさも感じました。

授業としての造形活動には、子どもたちに、こんなことに気づいてほしい、こんなことを感じてほしい、こんな活動や表現をしてほしいと、活動の方向性やねらいを定めていきますが、子どもたちにそれを強制する必要はありませんね。

何を考えながら表現しているか、どんなことを感じ取っているか、子どもたちの学びはそれぞれ、子どもたちは、活動しながら自らどんどん学び取っていきます。自然と学び合っています。子どもたちの力ってすごいですね。小学校５年生の活動としても、十分に学びを楽しめる造形活動でした。　（宮川友二朗）

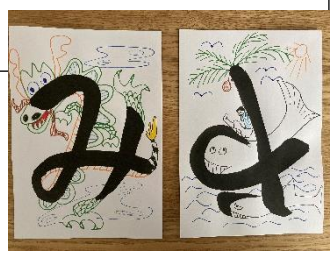
みなさんの投稿をお待ちしています（会報への原稿募集）

図工や造形の時間に実践したこと、子どもたちと一緒に造形活動をしたこと、造形教育に関するご意見、作品展を見に行ったこと、街で新たな発見をしたこと・・・等々。みなさんからの会報への原稿を募集したいと思います。

会報が一方向からの情報提供だけのものではなく、会報を通して、会員のみなさんが交流を図り、造形教育について一緒に考える一つのきっかけとなればと願っています。

会のメールアドレス宛に送ってください。お待ちしています。

教材研究が楽しかったので、次の研修の教材研究もやってみました



次の研修の素材は、筆で描いた文字（ひらがな）をもとに、そこから思いつく絵を描いていく活動です。

やってみると、大人は初めちょっと戸惑うかもしれませんね。いろいろなことに捉われ考えすぎてしまうかもしれません。でもやり始めるとすごく楽しいです。達成感や満足感など喜びも十分に味わえます。子どもたちは、きっと何にも捉われることなく、ぐんぐん描いていくでしょうね。

子どもから大人まで楽しく活動できる方策がいろいろありそうです。みなさんで考えてみませんか。研修への参加をお待ちしています。

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.02.19 第６４号

「かぐのみまつり」を参観して

２月７日(土)に逗子にある、かぐのみ幼稚園の作品展「かぐのみまつり」を見てきました。かぐのみまつりは、園で過ごす子どもたちの１年間の遊びと生活の表現展として位置づけられているとのことです。作品展といっても、子どもたちの表現の結果としての作品が展示されているだけではなく、様々な活動から生まれる一人一人の表現の足跡が園内いっぱいに展示されていました。

年少から年中、年長とそれぞれのクラスの子どもたちの遊びや生活の様子、生き生きとした表現を通して感じることができました。

与えられた活動ではなく、日常の生活や遊びから自分たちが感じたこと、やってみたいな、おもしろそうだなと思ったことをもとに、自分たちで活動を創り上げていく姿やその活動から生まれる表現などを見たり感じたりしていると、とても楽しい気持ちになってきました。

また、子どもたちがそれぞれのクラスで今遊んでいることや楽しんでいることが見えるような展示がされており、大きな段ボールでつくった交番やパトカー、いろいろなものを売っているお店屋さん、園庭に広がるにわとりのおうちや手作りの遊び場、影絵のお話までつくって遊ぶ姿・・・など、子どもたちが楽しく活動している様子も伝わってきました。

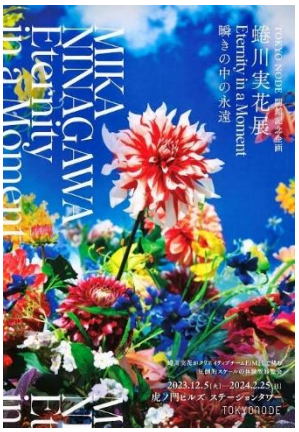
かぐのみ幼稚園の「いちょう」の神木

２０年ぶりに「かぐのみ祭り」に行きました。昔と今とがつながって、新しい発展をしているのを見てきました。若いご子息の園長先生にもつながっているのを感じました。いちょうの木もますます太く、神木となりました。

若い先生も説明は熱心で頼もしく子どもの様子が分かり「おもしろい!」を連発してしまいました。楽しい保育をたくさん考えてとりあげている方も多く、ダンボールなどは子どもに寄り添って活動している幼稚園と思いました。無理のない子どもの遊びの足跡に徹している姿勢と、たくさんの子どもの遊びを子にそって取り上げているのは素晴らしいと思いました。

見終って一休み。手作りのけんちん汁をごちそうになりながら一緒にお話をさせていただいて、こころがほっこりしました。昔の先生方も今の先生方も、みなかぐのみの精神を心の底に豊かに持って、新しい芽を花開かせているのを見て、うれしく思いました。　　(嶋田　富美子)

衝撃の美術展



先日、虎ノ門ヒルズ内の TOKYO NODE で行われていた「蜷川実花展」に行ってきました。回を重ねるごとに規模を大きくし、人気を不動のものとし、今回の展覧会は入場制限まで設けられました。

チケットを見せて入場してから、暗く長い回廊を通り、１つ目の作品に辿り着くと、いきなりのカッコよさ！　　床にランダムに並べられた 10 個以上の水槽。水槽の背景にあたる部分に、モニターが仕掛けられており、そこに、観てすぐに蜷川さんだとわかるエフェクトの効いた動画が映しだされています。得意のモチーフである金魚の動画ももちろんあるにはあるのですが、ただの幾何学模様を映している水槽もあります。ただ全体的にアメリカンオールドサイバーパンク？みたいななんとも形容し難い美しいワールドを作り出していました。そして、次の部屋では、更なる衝撃を受け、その次へ進むと、映像センス、技術、空間、に圧倒され、無言で立ち尽くし、、、カメラのシャッターを連打していると、ふと我に帰りました。

ここは、どこだ？　今日は、美術館に行こうと思ったはず。
うん？ここは、どこだ？僕は、何をしてるんだろう？
と、発作のようにこんな感覚に陥る瞬間があります。

少し話が変わりますが、誰もが夢の国と讃えるディズニーランド。僕も大好きです。なんという造形美。どうやって作ったんだろうと思うくらいの山の岩肌の質感や、時代を遡る異国の建物の色褪せ感。最新の映像技術を使った人を楽しませる能力も天下一品。いずれにおいても隙のない美しさに包まれています。ただ、ディズニーランドを美術館だという人はいない。ん？いるかも？まあ少なくとも、美術館に連れてって！と言われて、ディズニーランドへと導く人はいないのでは。　という感覚。

蜷川実花さんの個性を決定づける色味や写真の捉え方が、とても好きで、かなり前から、衝撃を受けてきました。今回の展覧会もその延長線上にあり、蜷川実花さんの色気全開なのですが、演出がド派手過ぎて、アーティストはどこにいるのだろう？そもそもこれはアートなのか？

いまや子どもたちにまで名前が浸透している「チームラボ」。彼らの作品も、かなり前からオムニバスな美術展で何度か観たことがあり、光るものがありましたが、お台場にボーダレスが誕生して話題になり、テレビで紹介されると、全く観たいという気持ちが起こらないわけではないのですが、ディズニーランドに行きたいという気持ちに近い感情が湧いたのを覚えています。そして、実際に行くことはいまだありません。なんでしょう？この感覚。

現代アートが大好物の私ですから、美術館に行って、超絶技巧な貴族の肖像画を観たいわけでも、色褪せたひまわりや睡蓮の絵を切望しているわけではないのですが、じっくり作品に触れながら、過去の自分や自分を取り巻く風景を回想したり、来たるべく未来に希望を巡らせる、そんなしっとりとした時間や空間を与えてくれる美術展にこれからも足を運びたいと思います。

（松浦雅昭）

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.02.23 第６５号

2月　月例会&わくわく研修会の報告

２月１７日(土)９：００～１２：００　会場：ゆめの樹保育園ほどがや　参加人数：１４名

運営会議では、会の案内チラシ作成や４月以降の月例会及び提案者について話し合いました。

その後、１０時から「わくわく研修会」を行いました。今回の研修は、筆で書いたひらがなをもとに、そこからイメージした絵を描いていきます。まずは自分の名前の中から好きな文字１文字を選んで、それを筆で書いてもらい、それをもとに絵に表していきます。幼稚園の子どもたちが描いた楽しい絵を目の前で見た後ですが、大人はなかなか描き始められません。やはり、文字を前にして、何をどのように描こうか、おもしろいイメージが浮かばないな・・・など、いろいろ悩み、考えてしまうのですね。

でも、みなさん最初の絵を描き始めてからは、どんどん描き進めていき、かなり描きこんだ作品に仕上げました。子どもたちは、５分もしないで次から次へと描いていくので、大人も描きこむよりも発想勝負で、どんどん描けないものかと・・・。そこで、少し小さめの紙にして、時間を制限してやってみることにしました。　　まずは、５分間でやってみました。文字の書かれた紙を配布して「用意、始め！」

なんと、ちょっと紙を回してみたりした後、ほとんどの人がすぐに描き始めました。さらさらっと描いた絵が、皆とても素敵です。５分という時間が結構長いなと感じるほどでした。そこで、次は３分で。面白いように次から次へと楽しい絵が生まれてきます。活動すること自体もわくわく感が増して、どんどん楽しくなっていきました。

結局、一人一人が４～５枚ずつ描きました。最初の絵では、何をどのように描こうかと悩んでいたのに、あっという間にこれだけ描きあげました。

その後、体験した活動をもとにみんなで話し合う時間を取りました。幼児から小学生、中学生、大人でも楽しめる活動で、その発達段階や学年に応じて活動の進め方を工夫していくことの大切さが話題となりました。また、幼稚園・保育園と小学校での、造形活動への取り組み方の違いやそれぞれの教育課程の特性なども話し合うことができ、大変有意義な研修となりました。

研修参加者の感想

○今日も楽しい活動をありがとうございました。文字の可能性が広がって、授業に生かしていきたいと思いました。年齢問わずできるので、その歳に合った活動を考えていきたいです。

○普段関わっているところで、この活動を生かしていきたいです。文字を使った表現は、漢字のものはよく見ますが、ひらがなの方が柔らかく親しみがあると感じました。描いているときのペンを動かしている音しかしない静けさが、参加された方々の癒しになっていると思いました。月例会に参加してみるとこのよさが分かると思いました。

○いつもそうですが、早速明日やってみたい！と思える研修でした。幼稚園・保育園の先生方と共に考えていくことは、小学校での図工に苦手意識を持っている児童への手立てを考えるきっかけになることが多く、とても勉強になります。こうした方がいいか、ああした方がいいかとあらかじめあれこれ考えるより、子どもと語り合い、活動しながらいろいろやってみるのがいいですね。

○日々何があるわけでもなく疲れを感じている中、この研修会にはいつも癒されます。今回、ひらがなの形、意味、回転させて見えてくるもの等々から発想し、ペンで付け足して描いていきました。初め、自分の名前の中から一文字「せ」。戦争の「せ」から、幸せの「せ」へと、太陽の光が降り注ぐ幸せな世界が広がることを願って描きました。その後、怒涛の如くひらがなの書いてある紙が渡され、5分、3分で描きましょう。2文字で描きましょう…。「え～！」と言いつつも、頭の中がすっきりとしていったのを感じました。明日から、いえ、この午後から気分を変えて明るく生きていけそうです。ありがとうございました。

○本日の研修を受けて、他者との考えの違いを感じることができました。同じ文字でも絵柄が違ったりと見ていてとても楽しかったです。文字一つだけでも、様々な見え方があったり、次はこうしたらもっと良くなるのではないかと考えが増えたりしていきました。自分は文字への先入観が強く残っていたので、その文字から連想するものを描こうとしていましたが、文字を回したり、横にしてみたり…。2つの違う文字が並んでいたりすると、より楽しく先入観もなくできるのかなと思いました。貴重な時間をありがとうございました。保育園でも取り入れて遊ぶことができたらいいなと思いました。

○今日も楽しく参加させていただきました。ありがとうございます。文字と聞くと、つい勉強だとイメージしてしまいますが、表現としてこんなにも面白いものになると知り驚きました。描き進めていると、文字という意識が次第に薄くなっていき、形として捉えてくるようになり、さらにイメージが膨らんでいきました。また、他の方々の作品を眺めながら意見や感想を交し合えたことで新たな視点を得たり、子どもたちの活動に生かすための具体的な考えを深めたりすることができてよかったです。

○本日は参加させていただきありがとうございました。日々当たり前のように目にするひらがなを「形」として捉えることがとても新鮮でした。初めて自分の名前を書けたとき、とても嬉しかったなという記憶もよみがえりました。活動自体はもちろん楽しく、みなさんの作品もとても楽しく見させていただきました。小学校の先生と保育者の方々の観点の違いがとても勉強になりました。子ども対先生という要素から、子ども対子どもの関係の中で活動を広げていくことも楽しそうだと感じました。昔の日本人も今回のような気持ちで平仮名や漢字を考えたのかなと疑似体験をしているようでした。とても貴重な機会をありがとうございました。今後も参加させていただけたら嬉しいです。

○今日参加するにあたり、研修会の案内を拝見したとき、課題の難しさに少し参加を迷うほどプレッシャーがありました。文字を回転させ固定概念を払拭し、発想を豊かにする面白さを体験し、絵に表す以外にも、職場で生かせる方法を探していきたいと思いました。幼児の活動としては、サインペンの硬さが少々気になり、いろいろなタイプのペン素材を試していきたいとも思いました。大変楽しかったです。ありがとうございました。

いつも大変あたたかい感想をみなさんありがとうございます

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.03.24 第６６号

「ひろしまハウス」

ひろしまハウスは、原爆によって壊滅した日本の広島県の悲惨な歴史を、内戦やポル・ポト派によって大虐殺されたカンボジアの人に知ってもらうために、募金で建てられました。そして現在、路上生活をする子供や、近隣に住む貧しい子供 65 名ほどが学びに行くフリースクールになりました。

子供達は様々な勉強をする中、クメール語に翻訳された日本の絵本を読んだり、文化交流をしたり、日本語検定を受けたりしています。

「ひろしまハウス物語」(仮)の始まりは、国近 京子さんと言う１人の主婦の方の発案から生まれました。のちに素晴らしい提案を次々と達成し、彼女はなんと館長になられました。

私は今、「ひろしまハウス物語」(仮)ドキュメンタリー映画を作りたいと考えています。
カンボジアの学校には、図工や美術の時間がありません。それには政治的歴史が関係していますが、時が経ち、日本人がカンボジアでアートを展開し始めています。昨年、カンボジア初のアートギャラリーが、プノンペンの、ひろしまハウスに出来ました。私はそこで、初めて、ひろしまハウスに出会いました。２０２３年４月から２０２４年２月末まで、カンボジア　プノンペン　ひろしまハウスのアートギャラリー　オープンイベント　「アジア平和芸術展」に私の不死鳥の作品が入選し、絵画作品を展示していました。

また、せっかくなので、同年の６月に、現地で七夕の短冊ワークショップをしてきました。そして、今、子供達の制作したアートで、寄付を集めようとも考え始めました。私は、造形教育をもりあげる会の月例会の経験を生かし、プノンペンのひろしまハウスで様々なワークショップを開催したいと考えています。アートの意味を、子供達に、肌で感じてもらいたいからです。

アートギャラリーがオープンした後、ひろしまハウスに保育園も出来ました。日本人の人口の平均年齢は５０歳くらいと言われていますが、カンボジアは２８歳くらいだそうです。それにもかかわらず、カンボジアには保育園がほとんど無いので、出来て良かったと思います。
また２０２４年２月 24 日から、一ヶ月、同アートギャラリーで SAMAKI EXHIBITION（SAMAKI→ サマキ　クメール語で「団結」「連帯」「絆」「共同体」と言う意味)が開催されています。ひろしまハウス　アートギャラリーの写真展です。昨年現地に行くことができたので、その時に撮影した写真をエントリーしたところ１点入選し、現在、ひろしまハウスで展示されています。次はどんな「初」が、ひろしまハウスに起きるのか、とても楽しみです。

１人でも多くの人に、ひろしまハウスを知ってもらいたいです。(まんまさちこ)

「造形教育をもりあげる会」活動テーマ

「造形活動って　楽しい！　おもしろい！　ここちよい！」

スローガン　「造形教育が学びを変える！　教育を変える！」

以前、会報第５６号でも取り上げましたが、造形教育をもりあげる会の新たなテーマとスローガンが上記のように決定しましたので、会員のみなさまにお伝えするとともに周知していただきたいと思います。

テーマの**「楽しい」「おもしろい」「ここちよい」**は、造形活動のよさや特性をそのまま表している言葉です。これをテーマとするのは、造形活動のこれらの言葉で表せる素晴らしさを、会の活動を通して広く伝えていくことをめざしていくということであり、もりあげる会の考え方や造形教育に対する姿勢が一番わかりやすい表現をテーマとしました。

造形活動の**「楽しさ」「おもしろさ」「ここちよさ」**については、それぞれの考え方、感じ方、解釈があると思いますが、次のようなことが考えられるのではないでしょうか。

「楽しさ」

・自分で考えてものをつくったり、自分の思いを自由に表したりする、いわゆる創造的な活動の楽しさ。
・自分がやりたいことや表したいことを思いのままに表現できる、心の発散や解放の楽しさ。
・自分で体験することによって、様々なことを発見できる楽しさ。

「おもしろさ」

・上下関係や序列、常識や既成概念などに捉われることなく自由に表現できるところに表れるもの。
・個々の自由な発想が尊重され、同じ素材や条件で表しても、みんな違った表現になること。
・活動する中で、自分の想像を超えた思いもよらぬ表現に出会えること。

「ここちよさ」

・正解がなく、一人一人の考えや、表現、活動が尊重される安心感が得られる時。
・どんな表現でもいつでも認めてもらえるうれしさを味わえる時。
・自分が表現したいことやつくりたいものに向けて「ああしよう。こうしよう。」と試行錯誤しているとき。

この「楽しさ」「おもしろさ」「ここちよさ」は、造形活動を通して学ぶ造形教育だけのものではなく、全ての学びに当てはまるものです。だから、子どもの学びに携わる一人でも多くの先生方に、この「楽しさ」「おもしろさ」「ここちよさ」を味わってもらい、全身で感じ取ってもらいたいのです。

多様性が尊重され、正解のない出来事ばかりになってきている社会で、何をどう学んでいけばよいのかが問われています。造形活動は、本来正解のない表現活動ですから、造形教育では、多様な表現を認め、一人一人の違いを尊重していくことが当たり前です。

自分の思いや考えを自由に表現していくことが大切にされてきた造形教育では、「ああしなさい、こうしなさい。」と強制されることがなく、画一的な活動や表現を押し付けることはありません。

楽しく学ぶ造形教育では「こうしたらどうだろう。」「もっとこうしてみよう。」と自ら考え工夫し、試行錯誤を繰り返しながら製作や表現活動を進めていくという、主体的能動的な学びの探究活動でもあります。

ですから、造形教育にはこれからの「子どもの学び」を見据え、子ども本来の学びの姿を取り戻す形に、今の学びを変えていく力があるのではないかと考えます。

「造形教育が学びを変えることができる。学びを変えていく必要がある。学びを変えていかなければならない」・・・という強い気持ちからスローガン**「造形教育が学びを変える！　教育を変える！」**を掲げることにしました。

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.04.06 第６７号

3月月例会の報告

３月９日(土)１０：３０～１２：００　鎌倉女子大学幼稚部　参加者：１１名

＜運営会議＞

〇活動テーマについて

テーマ及びスローガンの意味付け、設定した意図や説明を会員向けに→「会報」に掲載

〇大会提案者について

幼稚園・保育園は決まってきているが、小学校や中学校に今後声を掛けていく

〇４月以降の月例会の予定を確認

・４月２０日(土)　ほどがや地区センター　午前
・５月１８日(土)　会場未定
・６月１５日(土)　鎌倉女子大学幼稚部　午後
・７月２０日(土)　会場未定
・８月３１日(土)　未定
・９月　７日(土)　第６８回「造形教育をもりあげる会研究大会」横浜ワールドポーターズ

〇造形教育をもりあげる会の紹介チラシ

作成し印刷する方向で内容検討中

＜わくわく研修会＞

「ストリング(糸引き絵)の表現から」～いろいろ試して、おもしろいアートを見つけよう～

タコ糸や麻ひもなどを使って、墨や絵の具を紐に付けて画用紙で挟んで引き抜くという「ストリング」の技法をいろいろ試しながら、その表現を生かしたおもしろい、楽しい表現を見つけていく研修でした。

参加者がちょっと少ないのが残念でしたが、みなさんいろいろ工夫しながら楽しんで活動していました。

やっているうちに、墨や絵の具の付け具合、画用紙を抑える強さなどによっても表現が変わってくる面白さにも気づいてきました。また、慣れてくると、紐の置き方により、自分がイメージしたものに近い表現となるので、ある程度意図的に表現することもできるようになってきました。

さらに、紐を２本にしてみたり、絵の具でやったものに墨の黒を付け足してみたり、乾いてから何度も糸引きをしてみたりと、様々な工夫が生まれ、その都度「これ見て」「あ、おもしろいね」「これどうやってやったの」と、自然とコミュニケーションも広がっていきました。

最後に、大きな模造紙を使って、参加者みんなで思い思いの色を付けた紐を好きなように紙の上において、その上にもう１枚の紙を重ねて、一斉に紐を引いてみました。開いてみたときの「おー！」という声。思った以上の面白さでした。

たった一つの表現方法で、こんなにもいろいろな表現活動が広がる造形は、本当に楽しく、おもしろいです。

「わくわく研修会」参加者の感想

○「糸引き絵」今回も楽しみにして来ました。カラフルに絵の具で糸を引き、春のイメージに。赤い絵の具を付けて押さえていたら、イセエビに見えてきました。次に黒をつけて！！黒い眼玉ができて、魚を上から見たような絵が登場！壱岐の島のたこを思い出し、絵の具でカラフルにしていきました。思いがけない線や形が表れてくるので、とてもおもしろかったです。最後に模造紙を使って、みんなで糸をひっぱって大きな絵ができました。開けると「ワァー！」という歓声でした。楽しかったです。

○黒があったことで印象が変わりおもしろかったです。また、年齢に合わせて、その後に切って絵をつくったり、描き足して絵をつくるなど、さらに発展していけることがおもしろいと感じました。みんなで何に見えるか言い合えるのも楽しいし、自分では思いつけないような発想にも出会えて楽しかったです。個人でもできるし、最後にやったように、複数人でやるのもおもしろくて、さらにいろいろな紐でもやってみたいなと思いました。

○糸引きは保育の現場でもやったことがありましたが、きっともっと楽しく出来るはず！と楽しみに参加させていただきました。絵の具を溶く濃さや紐の太さや長さ、色の付け方や紐を押さえる強さなど、1 人では気付けないことが皆さんからどんどん感想や提案が出てくるので、それを踏まえてまた試して…と、面白くて時間があっという間に過ぎてしまいました。そして糸引きだけでは終わらない、そこに更に手を加えていく作業もまた楽しく、きっと子どもたちも活き活きと取り組めるだろうな～と実践するのが楽しみになりました。
今後も自分の視野を広げる為にもまた参加させていただきたく思います。

○自由に皆が活動し、もりあがりました。もりあげる会でもりあがりながらの表現活動は、たのしく、おもしろく、ここちよかったです。年代により、完成する作品の雰囲気が違い、互いに刺激を受けたと思いました。

○短い時間でしたが、とても楽しい時間をありがとうございました。糸引きでの表現はやったことはありましたが、墨で黒色になるのはやったことがなく、黒のたのしさ、おもしろさを感じました。絵を描くことが苦手な私は、偶然できる絵が好きで、今日はとても楽しかったです。一つではなく、いくつもに見える絵。見る人によっていろいろなものに見える絵ができる。この糸引き絵は、子どもでもできて、こどもからも学ぶことができるなと感じました。子どもと一緒にやりたいなと思います。たくさんの学びのある時間でした。

○ひもを引っ張る時に、どんな模様が出てくるのか、わくわくどきどきしました。このわくわくどきどき感が造形活動の出発点になるなと、改めて感じました。また、いろいろな人の発想から自分の枠組みが広がっていくのも造形活動のよさと思いました。

○今回もいろいろなところに発展が見られてよかったです。やり方でいろいろおもしろくなる。子どもと一緒に考えると、もっとおもしろいものができるので、ぜひやってみたいと思いました。研修会でいろいろ表現が広がるのが醍醐味です。もっといろいろな先生方に参加して欲しいと強く思いました。

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.05.20 第６８号

4月の月例会報告

遅くなりましたが、４月の月例会での「わくわく研修会」の様子をお伝えします。
４月２０日(土)１０：３０～１２：００　ほどがや地区センター

『見立てて遊ぼう!』~コラージュからの発想

４月とは思えない、強い日差しが降り注いでくる「ほどがや地区センター」の研修室で、長年幼児教育に携わって来られた嶋田さんの実践の一つ、見立てからコラージュ制作を行う活動が行われました。たくさんの広告やチラシが机の上に並べられ、その中にある野菜・服・おもちゃ・植物(花)・動物・自動車等々を使って想像力を働かせて行う活動でした。

子どもは、「見立て遊び」をして、写真のものを自分のイメージで異なる世界を思い思いにつくり出していきます。写真のテレビをテレビとしてとらわれず、テレビに線を描いて人の横顔や洋服にするなど、全く別なものに変身させます。子どものつくり出すイメージの世界は本当に面白いです。

ところが、大人は違います。例えば、切り取ったものを組み合わせて動物にしたり、切り取ったものを利用して宇宙船を描いたり、チラシのカラーの部分をそのまま切り取って、海の生き物にしたり、ロケットの一部にしたりしていました。中には、現実のものに引きずられて、現実の世界の表現になってしまっている方もいました。

それはそれで、素材や題材から、いろいろな可能性を感じることができました。同時に、子どもと大人の見立ての違いを改めて感じることにもなりました。ここで大切に感じたことは大人も見立て遊びをたくさんやって、イメージを広げることが大切だったなと感じたことでした。チラシを真正面から見るだけでなく、斜めや横、逆さに回してみて、何に見えるかな? という導人の大切さを感じました。大人はこれまでの経験からいろいろなことを知っているので、どうしても考えすぎてしまうのかもしれませんね。

研修会に参加してくださった方々は、無心になり、楽しく活動している姿もたくさん見られました。それは、最後の作品紹介でも感じられたことです。どうもありがとうございました。

子どもと大人の感性の違いと、導人の大切さを痛感した研修会でした。

研修参加者の感想

○　写真から思いついたことを表す活動でした。カタログなどから写真をたくさん切って画用紙に置き、イメージしていきました。しかし、私の思う活動と違ったみたいで、「違う」と言われ戸惑いました。お話を聞いて何となく分かってきたので、皆さんと同じような活動ができるようになりました。出来上がった作品を並べるとそれぞれの思いが違うのが分かり、面白い活動だと思いました。また指導者の意図が伝わらないと感じたときどうしたら良いのかを考えさせられました。ありがとうございました。

○　今回、初めて「造形教育をもりあげる会」の研修に参加させていただきました。

　カタログなどの写真を使ったコラージュの活動でした。周りの方の活動の様子を見たり、声をかけていただいたりする中で、少しずつイメージがもてるようになり、最後は楽しく活動することができました。初めは、思い浮かばず悩んでしまった私でしたが、今回の活動を経験したことで物の見え方や発想が少し広がったような気がします。何事も経験なのでしょうか…。子どもたちにとっても授業が見方や考え方を広げていくきっかけになればいいなと思いました。子どもたちが活動の中で思いを広げられるよう、声のかけ方や認め方を考えたいと思いました。ありがとうございました。

5月の月例会

５月１８日（土）「ほどがや地区センター」にて

５月の月例会では、毎月やっていた「わくわく研修会」を行わず、運営会議のみで開催しました。

運営会議では、９月開催の「造形教育をもりあげる会研究大会」の運営計画や準備分担などについて検討しました。合わせて、これからの会の運営について、さらに魅力ある会をめざし、造形教育に関心のある方々や会員の方々のニーズに合った会のあり方について話し合いました。

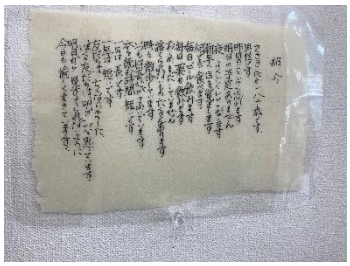
大会の１次案内も今月中には印刷できると思いますので、会員のみなさんにはメールで配信します。

６月の月例会では、また「わくわく研修会」も行います。

鎌倉女子大学幼稚部にて６月１５日(土)の午後に開催の予定です。

心温まる佐々木孝さんの作品展

前「もりあげる会」会長の佐々木孝さんの作品展に、もりあげる会の会員の皆様も、たくさん見に来ていらっしゃいました。



版画の作品は、見ている人の心が自然と安らいでくる感じがします。

そして、作品に添えられた言葉が作品の温かさと共に佐々木先生のお人柄を表しているようで、思わず微笑みながら読んでしまいます。

８０歳になられても、ますますお元気で、今でも幼稚園の子どもたちと一緒に造形活動を楽しんでおられるとのこと。また機会があれば、会としても先生のお話を伺えたらと願っています。

ささき・たかしの木版画展のご案内

～80歳の小径・木版画のつぶやき～

この度、生誕80歳を機に、河西万文教授に師事した版画の技法を大切にし、 展示する運びとなりました。
ご高覧下さいますようご案内申し上げます。

“与論島・希望の翼”　(300×310)

■2024年5月6日（月）～5月12日（日）
AM11:00～PM6:00（最終日PM4:00）
■会場「みつい画廊」

みつい画廊
横浜市中区吉田町5-1
TEL 045(261)3721
お問い合せはハヤカワ画材店
TEL&FAX 045(263)3321

★「つちのこ版画サークル」も賛助出展しております。
○主催者の都合により、生花・お心遣いの品等ご辞退申し上げます。

1/1

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.06.26 第６９号

6月月例会&「わくわく研修会」の報告

６月１５日（土）１３：３０～１６：００　会場：鎌倉女子大学幼稚部　参加人数：１８名

運営会議では、いよいよ迫ってきた「第６８回造形教育をもりあげる会研究大会」に向けて、事前準備の役割分担や今後の準備タイムスケージュールの確認、実践紹介者の確認、当日のプログラムの調整等について話し合いました。

その後の「わくわく研修会」は、会場の鎌倉女子大学幼稚部さんのご協力で、子どもたちが日常の遊びや造形で使っている空き箱や空き容器等、身近な身辺材料をたくさん用意していただき、それらを使った造形遊びを体験しました。

鎌倉女子大学幼稚部では、常に身近にある材料を各教室に大量にストックされていて、子どもたちが日常的にそれらを自由に手に取り、いろいろな活動ができる環境となっているようです。

今回その一部を提供していただいたのですが、まずは、その量や種類に驚きました。目の前にこれだけのものがあったら、子どもたちはワクワクするだろうなと思いました。

さて、研修の中身ですが、今回は何かをつくるということではなく、たくさんあるいろいろな材料を使って遊んでみました。遊ぶことにより、その材料の様々な特性に気づくことできます。大きさ、長さ、固さ、重さ、手触り、滑りやすい、転がりやすい・・・など、手に取って遊ぶことにより、様々なことを感じたり気がついたりします。幼児は、日常的にこのような活動を自然に行っているのですね。

４つのグルーに分かれ、高く積む競争をしました。時間は１０分。

長い材料を探すグループ、土台をたくさんの材料で固めて安定させるグループ・・・等々、それぞれの工夫が自然と生まれてきます。

次は長く並べるです。スタートゴール地点を決めて、どこが速いか。

ここでも、みんないろいろ考えます。長い帯状の材料を見つけたグループがトップに。見つけるものです。でも、これはちょっとずるいかなという感じもしたので、次は、この帯状の材料抜きでやりました。やっていくうちに自分たちで約束やルールを生み出していく。これも遊びの特質ですね。

その後も、すべらせたり、転がしたり、投げたりと、どんどん遊びが広がっていきました。活動を終えるころには、結構汗まみれに。大人でも、みんなで活動すると、こんな遊びでも夢中になってしまいます。

研修の最後に、長いビニール袋を使った活動を試してみました。これは、９月の研究大会でワークショップとして、みなさんに提供できないかと考えている活動です。長いビール袋に送風機で風を送ると、袋が筒状にピンと伸びます。その中に、紙きれやスズランテープなどを流すとどうなるかな？空気が逃げないように、袋の先を縛っておくとどうなるかな？と、いろいろ試してみました。一番面白そうだったのは、袋をくしゃくしゃにまとめておいて、そこに送風機の風を送ると、蛇のように動きながら伸びていく様子でした。大会のワークショップで、みなさんと一緒にこの長い袋を使った活動ができるかもしれません。

（この活動の様子は、もりあげる会のインスタグラムで、動画で見ることができます）

＜研修参加者の感想＞

○空き箱だけで、こんなにも遊び方があることを知り、大人でも楽しい時間でした。汗をかくほど運動量があることを知れて、年齢と子どもの姿に合わせて、ゲームや遊びを保育の中に取り入れていきたいです。自然の風は、外に行くとよくあり、ビニール袋で、子どもたちは、たこあげのように楽しんでいます。そのように、送風機がなくても、風でたくさんの遊び方があるなと改めて感じました。

○初めての参加でしたが、身近な廃材を使って体を動かしたり、頭を使ったり、何か作品をつくることだけでなく様々な楽しみ方ができました。年齢別にいろいろと工夫できる遊びがたくさんあったので、日々の保育で実践してみたいと思いました。

○様々な廃材を使った遊びをいくつか実践させていただきました。園でも小箱など一種類の廃材で高さくらべや長さくらべをしたことはありましたが、カップやトレー、ペットボトル、ひもなど、たくさんの種類を使うと、様々な組合わせができて楽しかったです。遊びながら子どもたちとルールを考えていくこともできるのがよいなと思いました。

○廃材で遊ぶことも多いので、みんなで高く積んだり、距離を伸ばして遊んだりしてから何かを作り出すと、どんな素材か、形なのか、手触りなども知れるので、つくりたいものが創造でき、遊びの発展にもなるので、実践したいと思います。

○私が勤めている幼稚園でも、廃材を使って遊んだり、つくったりする時間があります。朝の自由時間や午後の自由時間、夏休みのあずかり保育など、いろいろな時間に、さまざまな年齢の子が廃材と触れ合います。今回のように、廃材で遊ぶ！ということを体験し、廃材を使うことがより身近に感じました。遊びから材料にふれあう大切さを教えていただきました。今回もとても楽しかったです。

○廃材遊び、とても楽しかったです。“何かをつくる“となると、大人でもどうしよう…。何にしよう…。と思ってしまうことがありますが、みんなで積む、並べる、転がすと、だれでも楽しめる内容だったので、どの子も抵抗なく楽しめてとてもいいなと思いました。すぐに実践できそうな内容なのもありがたかったです。

○廃材を使って「何かをつくる遊び」の一つ前の遊びという感じで、軽い、重い、長い、短い、固い、やわらかいなど、素材を感じる活動として、自然に楽しめると思いました。

○普段、幼稚園では、廃材を使って製作を行っていますが、廃材に触れて、ただ並べたり、積み上げたりするだけで、いろいろな素材の種類（形や重さなど）見つけることができましたので、それだけでもたくさん遊べると感じました。

○様々な身辺材料を使って、高く、長く、いすや机を超えて長くなど、楽しい造形遊びでした。4人のグループでアイデアを出し合い、他のグループと競争したりして楽しくできました。次はその材を滑らせて、線に近い人から1位・2位…。最後は、投げてラップの芯を倒す。これがなかなか難しく、倒れたら拍手喝采！大きな声で笑って発散できました。研究大会に向けての活動の試しでは、ビニールの中に入れるものが、長い方がいい、切った方がいい、なんかに入れるのがいいか外がいいか、何を入れるのがいいか…等々。皆で言い合いながら変わっていくのがおもしろかったです。大会当日、参加者が楽しんでくれる姿が目に浮かびます。また、友人や知人を誘って研修や大会に参加したいと思います。

https://www.zoukeimoriage.com/

造形教育をもりあげる会
会長：武田晴信
編集責任：宮川友二朗
moriage123@gmail.com
2024.08.07 第７０号

「第６８回造形教育をもりあげる会研究大会」に向けて

研究大会まで後１か月となりました。運営委員を中心とした準備も着実に進んでいます。造形教育をもりあげる会は、運営実行のメンバーだけでなく、参加者みんなが主体となって創り上げていく会なので、会員の皆様には、またメールを通してサポートスタッフのお願いをさせていただこうと思っています。その節はよろしくお願いいたします。

講演会、実践紹介の分科会、ワークショップ等の詳細が決まってきましたのでお知らせします。

実践紹介について

第１分科会
ゆめの樹保育園ほどがや　　日下部玲奈・佐々木真由美
「法人の考えるアートの取り組み」

第２分科会
川崎市立小杉小学校　　小澤　朋子
「アートカードで遊ぼう」（1 年生）

第３分科会
切貼民話師　　平山　雄大
「コラー獣をつくろう」

第４分科会
横浜市立藤が丘小学校　　松浦　雅昭
「はっぱっぱワンダーランド」（３年生）

第５分科会
白梅いずみ保育園　　小林　朋美　他
「生活から広がる造形」
～お芋掘りから生まれた　子どもたちの表現活動の拡がり～

第６分科会
川崎市立東生田小学校　　大高　修
「特別支援級の取り組みから」

第７分科会
鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園　　安藤ちせこ・甲斐愛美菜
「子どもの小さな発見や挑戦に光をあてる」

第８分科会
相模原市立共和小学校　　福岡　美奈子
「心のもよう」（５年生）

実践紹介の分科会では、昨年度の大会から司会者ではなく、会の進行をつかさどるファシリテーターを設けています。「提案・質疑応答・協議」という従来の分科会の進め方から脱却して、実践紹介者と参加者が子どもたちの造形活動の様子を通して、自由に語り合える雰囲気の進行を目指しています。

その場にいる人が、感想や気が付いたこと、自分の考えなどをお互いに出し合いながら、みんなで会を創り上げていけたらと思っています。もちろん、発言せずに聞いているだけの参加も OK です。

参加の仕方もそれぞれ、多様でいいと思います。

昨年度大会の分科会の様子
（作品を見たり材料を手にしたり、時には体験したりしながら語り合っています）

ワークショップについて

「長～い、長～いビニール袋に風を送って遊ぼう！！」

長いビニール袋に風を送ってみたらどうなるでしょう？なんか、蛇みたいにグニャグニャ動きそうな気もしますね。

ビニール袋にスズランテープや紙切れなどを付けてみたり、中に入れてみたりしても面白そうですね。

みなさんでいろいろ試して楽しみましょう。

「スチレン版を好きな形に切って、みんなの形を合わせてアートにしよう！」

スチレン版を熱線で切っていくのは、なんとも気持ちがいいものです。おもしろいように切れていく感触を楽しみながら自由に形を切り取っていきましょう。マーカーで色を付けても楽しいですね。

黒い台紙の上でみんなの作品を合わせて、一つのアートを完成させましょう。

「えっ！？　ここに絵をかくの？　これどうなるんだろう？」

小さな白ボール紙になんか黒い線があります。その中に好きな絵をかいてマーカーで色を付けていきます。「さて、これがどうなるのでしょうか？」

最後に、それぞれが描いた絵を大きな台紙に貼っていくと・・・、何かが表れるでしょうか？

「おみくじパズルお絵描き　～コレ、なんの形？～」

箱の中から、おみくじのように紙を１枚引いてもらいます。自分が引いた紙の色や形、材質から発想して、思い浮かぶ絵を自由に描いてみましょう。

ワークショップの時間に、業者による造形教材の展示を見ていただくことも可能です。

新しい材料や用具の紹介、その扱い方のワークショップなどもあるかもしれません。

合わせてお楽しみください。

講演会について

岡田京子先生

前文部科学省初等中等教育局教育課程科教科調査官

東京家政大学家政学部造形表現科　教授

演題：「楽しい！おもしろい！ここちよい！造形活動をつくる」

子供が夢中になる造形活動をつくりだすにはどのようなことが必要なのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

＜岡田先生から、

造形教育をもりあげる会へのメッセージをいただきました＞

「歴史ある“造形活動をもりあげる会”に参加させていただくことを大変光栄に感じております。いつも会報を拝見しながら、皆さんからエネルギーをいただいています。

働き方改革が進められる中、学びたいと思った時に学べる場があるということは大変貴重なことです。当日は皆さんと一緒に、明日を生きる子供たちのための造形活動について考えていきたいと思います。」

参加申し込み受付中

現時点での参加申し込み数は、約４０名です。

参加を希望される方は、できれば早めにお申し込みください。

参加申し込みは、HP の「問い合わせ」または、

moriage123@gmail.com

※参加申し込みと参加費振り込みの際、氏名と所属を必ず明記してください。

たくさんの方の参加申し込みをお待ちしております。